

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備事業		路河川名等	主要地方道 松本塩尻線		
事業毎の通番	27	市町村名	松本市	箇所名(ふりがな)	寿台(ことぶきだい)	
事業目的	当路線は松本市と塩尻市を結ぶ主要幹線道路で、通勤のほか、物流の大型車の通行も多いが、沿道には寿台養護学校があるほか、明善小学校、明善中学校の通学エリアとなっており、児童、生徒をはじめとする歩行者の安全確保のため歩道を設置することが急務である。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
関連する事業、計画等	松本市都市計画マスタープラン 松本市立地適正化計画 しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	明善小中学校への通学生徒ほか、寿台養護学校 現況自動車交通量:6,562台/日(H27センサス)、歩行者:寿台養護学校生徒					
着手年度	2022年度(R4)	事業期間	4年間	事業費(千円)		
完成年度(見込み)	2023年度(R5)	費用対効果	-	財源内訳(千円)		
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=70m W=2.5m			50,000	27,500	22,500
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特児童生徒の交通事故の減少が期待される				
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制				
評価の視点	必要性	○現況自動車歩行者交通量:未計測(H27センサス) ○目的地までの距離:明善小学校L=400m			評価	B
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:松本市都市計画マスタープラン 松本市立地適正化計画 ○通学路等の指定:明善小学校			評価	A
	効率性	○事業期間4年(R4~R7)			評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 1件(R1~R3) ○現況の歩道幅員:なし R1 バイク×自転車1件、車×車9件、単独1件 R2 車×車6件 R3 車×車8件、単独2件			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)			評価	A
所管課の意見	小学生の通学路であり、松本市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

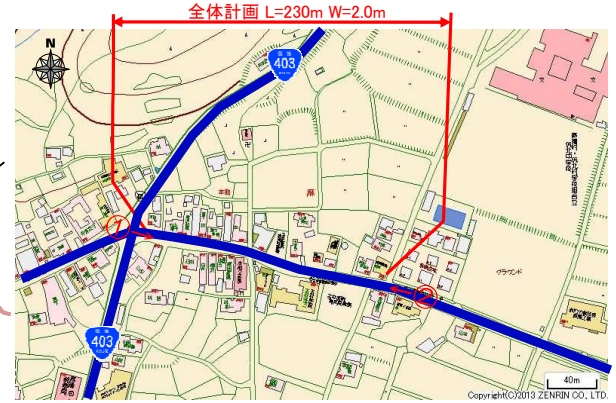
事業概要説明図表	位置図	状況写真		
	標準横断面図	平面図		
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は松本市と塩尻市を結ぶ主要幹線道路で、通勤のほか、物流の大型車の通行も多いが、沿道には寿台養護学校があるほか、明善小学校、明善中学校の通学エリアとなっており、児童、生徒をはじめとする歩行者の安全確保のため、歩道整備を行うものである。		
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	H29 松本市及び県内田地区町会連合会が歩道整備要望		
	③ 事業説明等の経緯	H30 通学路合同点検実施 H30 事業説明会実施		
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	松本市都市計画マスタープラン 松本市立地適正化計画 しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」		
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。		
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。		
	⑦ その他	特になし		
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。		事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 10' 17.4" 東経:E 137° 59' 51.20"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(主)丸子信州新線		
事業毎の通番		28	市町村名	麻績村	箇所名(ふりがな)	本町(ほんまち)	
事業概要	事業目的	当該箇所は、麻績村立麻績小学校の通学路として、また、麻績村の中心部から麻績村筑北村学校組合立筑北中学校への通学路として利用されている。しかし、現道は歩道が未整備であることから、歩行者の円滑な交通に支障をきたしている。このため、国道403号交差点から筑北中学校までの延長約230mの歩道を設置し、歩行者の安全な通行を確保したい。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	通学路緊急合同点検					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	麻績小学校、筑北中学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:2,535台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:43台・人/12h					
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	2025年度(R7)	費用対効果	-	国庫	その他	県債
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=230m W=2.0m			200,000	110,000	90,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される				
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制				
	評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:43台・人/12h ○目的地からの距離:麻績小学校L=550m、筑北中学校L=220m				評価
重要性		○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○緊急輸送路の路線指定:県緊急輸送道路(2次)に指定				評価	A
効率性		○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 0件 ○通学路対策:緊急合同点検を踏まえた対策箇所(麻績村立麻績小学校、筑北中学校) ○現況の歩道幅員:歩道なし				評価	A
緊急性		○現況の歩道幅員:歩道無し				評価	B
計画熟度		○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:協力的である ○地域の合意形成:合意形成が図られている				評価	A
		○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)				評価	
所管課の意見	小学生の通学路であり、麻績村の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

【位置図、平面図、構造図等】



【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業概要説明図表

事業周辺環境

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該箇所は、麻績村立麻績小学校の通学路として、また、麻績村の中心部から麻績村筑北村学校組合立筑北中学校への通学路として利用されている。しかし、現道は歩道が未整備であることから、歩行者の円滑な交通に支障をきたしている。このため、延長約230mの歩道を設置し、歩行者の安全な通行を確保したい。		
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	地元地区等から麻績村を通じて歩道整備の要望あり。		
③ 事業説明等の経緯	平成26年度 地元地区等と打ち合わせを行い、事業の進め方、歩道設置位置等の意向確認を行う予定。		
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」麻績村通学路安全プログラム		
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。		
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。		
⑦ その他	特になし		
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 27' 31.91" 東経:E 138° 03' 01.40"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備事業		路河川名等	(主)安曇野インター堀金線		
事業毎の通番	29	市町村名	安曇野市	箇所名(ふりがな)	田尻(たじり)	
事業概要	事業目的	当該箇所は市立堀金小学校の通学路に指定されているものの、歩道が未整備であり、かつカーブで見通しが悪くとても危険な状態となっている。 このため、通学する児童の安全を確保するとともに、視距の確保を図るため歩道を整備する必要がある。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	安曇野市通学路交通安全プログラム 安曇野市道路整備推進計画				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	堀金小学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:10,863台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:143台・人/12h				
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	2年間	事業費(千円) 財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	2023年度(R5)	費用対効果	-	国庫	その他 県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=185m W=2.5m		75,000	41,250	33,750
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される			
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制			
	評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:143台・人/12h ○目的地からの距離:堀金小学校L=300m			評価 A
重要性		○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定:通学路安全プログラム(R3合同点検) 堀金小学校			評価 A	
効率性		○事業期間2年(R4~5)			評価 A	
緊急性		○近年の交通事故件数 :事故なし ○現況の歩道幅員:歩道無し			評価 B	
		計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:協力的である ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)			評価 A
所管課の意見		小学生の通学路であり、安曇野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要がある、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況 ○	総合評価 A
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】		
	位置図		
	平面図		
	【整備の必要性がわかる状況写真等】		
	現状写真		
	標準横断面		
	事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該箇所は堀金小学校に近接しているものの歩道が整備されていない区間がある他、カーブのため見通しが非常に悪くとても危険な状態となっている。 このため、通学する児童の安全確保するとともに、交通の円滑化を図るための改良が求められている。
		② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	付近に小、中学校があることから、歩行者の保護が求められている。このため、歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保を要望されている。
		③ 事業説明等の経緯	平成23年 測量設計及び想定する地権者との意見交換会を実施。 平成24年 地元説明会を開催。
		④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	安曇野市通学路交通安全プログラム 安曇野市道路整備推進計画 しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮		当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮		歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。	
⑦ その他		特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 29'25.8" 東経:E 137° 86'69.9"	

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備事業		路河川名等	(一)中堀一日市場(停)線		
事業毎の通番	30	市町村名	安曇野市	箇所名(ふりがな)	住吉～楡(すみよし～にれ)	
事業概要	事業目的	当路線は、広域農道及び松本環状高家線に接続する幹線道路に位置し、交通量が非常に多い。当該箇所は、平成29年1月に事故危険箇所(A基準)に指定されている。(事故危険箇所 20-T07895-000) 自動車交通の安全を確保するため、住吉交差点～楡交差点間における道路改良を計画するもの。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	事故危険箇所(H29.1月指定) 通学路交通安全プログラム(H27)				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	三郷小学校、三郷中学校 通学区内 現況自動車交通量:18,072台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:5台・人/12h				
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	5年間		
	完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	-		
	全体事業内容(主な工種)	交差点改良2箇所		事業費(千円)	404,000	
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	5年間		
	完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	-		
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	右折レーンの設置により、交差点部の交通容量が確保される。 歩道設置により、歩行者の安全な空間が確保される。			
	間接的効果(定量的・定性的)	交通混雑の緩和、通行車両の交通事故の減少が期待される。				
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:5台・人/12h ○目的地からの距離:三郷小学校L=3,300m			評価	C
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定:通学路安全プログラム(R3合同点検) 三郷小学校			評価	A
	効率性	○事業期間:5年間(R4～R8)			評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 0件 ○現況の歩道幅員:歩道無し			評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている			評価	A
		○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-2)				
所管課の意見	小学生の通学路であり、安曇野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	B	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】	
		
		
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は、広域農道及び松本環状高家線に接続する幹線道路に位置し、交通量が非常に多い。当該箇所は、平成29年1月に事故危険箇所(A基準)に指定された。(事故危険箇所 20-T07895-000) 当該区間は、通学路交通安全プログラムにおいて合同点検を実施している。(H27) 当該交差点北側の広域農道において、歩道設置事業が行われており、交差点改良の機運が高まっている。
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	当該箇所は、安曇野市から交差点改良の要望を受けている。
	③ 事業説明等の経緯	H28 路線測量の実施について地権者へ説明 H29 用地測量時に関係者へ説明 R3通学路合同点検時に計画や予定を説明
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」 安曇野市通学路安全プログラム
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
	⑦ その他	特になし
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 16' 49.69" 東経:E 137° 52' 42.21"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(主)大町麻績インター千曲線			
事業毎の通番		31	市町村名	大町市	箇所名(ふりがな)	大平~矢下(おのだいら~やした)		
事業概要	事業目的	本路線は大町市と麻績村を結ぶ幹線道路であり、車両の通行が多い。しかし、当区間は歩道が未整備で、カーブ区間では見通しが悪いため、車両・歩行者双方の安全に支障をきたしている。近隣には小学校があるため通学路になっており、危険な状態である。そこで、当事業は歩行者の安全確保のため歩道を設置するものである。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	H24.R3通学路緊急合同点検箇所 R2大町市通学路交通安全プログラム						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	八坂小学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:1,828台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:286台・人/12h						
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2025年度(R7)	費用対効果	-	国庫	其他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=530m W=2.5m			140,000	77,000	56,700	6,300
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される 車両交通の円滑化が期待される					
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制					
	評価の視点	必要性	○現況歩行者交通量:149台・人/12h ○目的地からの距離:八坂小学校L=200m					評価
○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定:八坂小学校					評価	A		
効率性		○事業期間4年(R4~R7)					評価	A
		緊急性	○近年の交通事故件数:事故なし ○現況の歩道幅員:歩道無し					評価
計画熟度			○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:R2大町市通学路交通安全プログラムで要望あり ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている					評価
		○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(再評価6-2.5地元調整)					評価	A
所管課の意見	小学生の通学路であり、大町市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要がある、事業着手が妥当であると判断する。					採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	位置図		
	平面図		
事業周辺環境	現状写真		
	標準横断面		
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該区間は八坂小学校があり、児童の通学路となっているが、歩道が未整備で、カーブ区間では車両からの見通しが悪い状態である。H24に実施された通学路緊急合同点検で当該区間が危険箇所として位置づけられ、H30大町市通学路交通安全プログラムでも同様の位置付けとなっており、歩道設置の機運が高まった。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	本路線は、大町市八坂小学校の通学路となっており、H24通学路緊急合同点検箇所で危険箇所に位置付けられている。	
	③ 事業説明等の経緯	H30.12.4 大町市へ事業説明 R1.7.24 八坂小学校へ事業説明 R2.11.05 地元説明会	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」 大町市通学路安全プログラム	
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。		
⑦ その他	構造物の比較検討を行い、コスト縮減に努める。		
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。		事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 29' 17" 東経:E 137° 54' 29"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(一)森篠ノ井線		
事業毎の通番		32	市町村名	千曲市	箇所名(ふりがな)	雨宮(あめのみや)	
事業概要	事業目的	本路線は千曲市森地区と長野市篠ノ井地区を結び、国道18号にも接続する主要道路で、沿線には住宅が並んでいる。付近には小学校があり、当該箇所は通学路に指定されているが、幅員狭小で歩道も未整備のため、歩道の設置により安全な歩行空間を確保したい。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	千曲市都市計画区域マスタープラン 千曲市通学路交通安全プログラム					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	東小学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:3,033台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:222台・人/12h					
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	2年間	事業費(千円)		
	完成年度(見込み)	2023年度(R5)	費用対効果	-	財源内訳(千円)		
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=150m W=2.5m			165,457	91,001	74,456
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される				
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制				
	評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:222台・人/12h ○目的地からの距離:東小学校L=1,300m				評価 B
重要性		○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定:通学路交通安全プログラム(R3合同点検) 東小学校				評価 A	
効率性		○事業期間4年(R4~R5)				評価 A	
緊急性		○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 0件以上 ○現況の歩道幅員:歩道無し				評価 B	
計画熟度		○事業情報の共有:関係者以外にも周知 ○地域の取り組み:協力的である ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている				評価 A	
		○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)					
所管課の意見	小学生の通学路であり、千曲市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

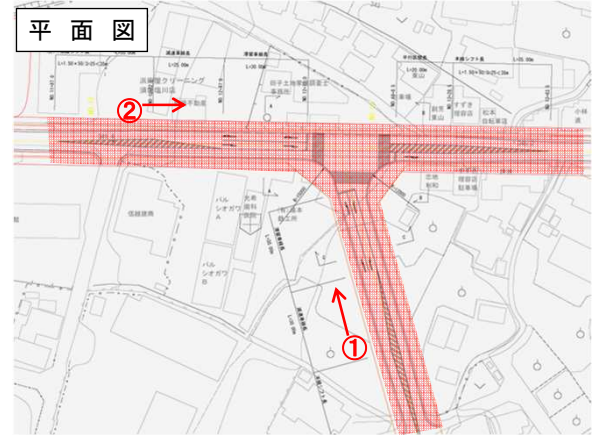
事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】	
		
事業周辺環境		
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は千曲市森地区と長野市篠ノ井地区とを結ぶ重要な幹線路線であり、起点側終点側は歩道設置済みである。人家が近接し、歩道中抜け区間となっている本区間について、地域づくり懇談会で歩道の設置の要望があった。通学路交通安全プログラムの要対策箇所である。
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	付近に小学校があることから、歩行者の保護が求められている。このため、歩行者の安全な歩行空間の確保を要望されている。
	③ 事業説明等の経緯	平成29年9月、平成30年3月 地権者説明 令和元年11月、令和2年3月 地元説明
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	千曲市都市計画区域マスタープラン 千曲市通学路交通安全プログラム しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
⑦ その他	特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 32' 51.64" 東経:E 138° 08' 52.25"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(国)406号	
事業毎の通番		33	市町村名	須坂市	箇所名(ふりがな)	塩川町(しおがわまち)
事業概要	事業目的	当該区間は須坂市街地の玄関口になっており、朝晩の通勤時を中心に混雑が見られ、イライラ箇所にも指定されている。また、(国)403号と接続する幹線街路である臥電線の整備が進められており、接続部である当該交差点には右折レーンが設置されておらず、右折車両による慢性的な交通渋滞が発生することが予想され、地元からも強い整備要望がある。また、日野小学校が近隣にあるが、歩道が狭く、危険な状態にあり、歩道の設置を含む、早期整備が必要となっている。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律	
	関連する事業、計画等	須坂市都市計画区域マスタープラン 須坂市通学路安全プログラム				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	日野小学校 通学児童 他 現況交通量 15,922台/日、現況自転車歩行者交通量 493台・人/12h				
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	2023年度(R5)	費用対効果	-	国庫	88,655	72,536
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=300m W=3.5m			161,191	88,655	72,536
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	利用者の安全確保、特に通学児童の交通事故の減少が期待される。				
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制 渋滞解消 緊急輸送路の整備				
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量：現況交通量 493台・人/12h ○目的地からの距離：日野小学校L=950m				評価 A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定：通学路安全プログラム(R3合同点検) 日野小学校				評価 A
	効率性	○事業期間2年(R4~R5)				評価 A
	緊急性	○近年の交通事故件数：人or自転車×自動車事故発生 20件(H24~R3) ○現況の歩道幅員：2.0m未満(W=1.5m)				評価 B
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：協力的である ○地域の合意形成：合意形成が図られている				評価 A
		○事後・再評価からのフィードバック：同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)				
所管課の意見	小学生の通学路であり、須坂市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

【位置図、平面図、構造図等】



【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業概要説明図表

事業周辺環境

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(国)406号は、長野市から菅平を結ぶ主要幹線道路であり、本事業区間は(国)403号と接続する幹線街路である臥電線との交差点部分である。
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	(国)403号と接続する幹線街路である臥電線が開通予定であるが、接続部である当該交差点には右折レーンが設置されておらず、右折車両による慢性的な交通渋滞が発生することが予想され、地元からも強い要望が挙がっている。
③ 事業説明等の経緯	本事業区間は、平成24年度に沿線住民への事業説明を実施。
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」 須坂市通学路安全プログラム
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
⑦ その他	コストの縮減が期待できる案を採用している。
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 39' 17" 東経:E 138° 17' 40"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備事業		路河川名等	(国)403号			
事業毎の通番	34	市町村名	小布施町	箇所名(ふりがな)	伊勢町～上町(いせまち～かんまち)		
事業概要	事業目的	小布施町は、昭和51年の北斎館の開館に始まるまちづくりの中で、年間約120万人の観光客が訪れる町となり、現在も、「まちづくりの第2ステージ」として、官・民協働で、新たなまちづくりの動きが進められている。当路線については、現在の歩道は幅員が約1.0mと狭く、マウントアップ形式でデコボコで危険であり、小中学校の通学路にも指定されていることから、歩行者が危険な状態となっている。また、特に冬期間は積雪が多い地域のため歩行空間の確保に苦慮している。そのため、今後のまちづくりにおける当路線のありかたの中で早期歩道整備が必要となっている。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	小布施町都市計画区域マスタープラン 小布施町通学路安全プログラム					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	栗が丘小学校・小布施中学校 通学児童・生徒 他 現況交通量 8,684台/日、現況自転車歩行者交通量 500台・人/12h					
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	7年間	事業費(千円) 財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2028年度(R10)	費用対効果	-	国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=350m W=4.5m(両側)			555,307	305,418		249,889
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	利用者(通学生・観光客等)の安全確保。					
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制 渋滞解消 緊急輸送路の整備					
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量：現況交通量 500台・人/12h ○目的地からの距離：栗が丘小学校L=240m、小布施中学校L=450m				評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定：通学路安全プログラム(R3合同点検) 栗が丘小学校				評価	A
	効率性	○事業期間7年(R4～R10)				評価	B
	緊急性	○近年の交通事故件数：人or自転車×自動車事故発生 12件 ○現況の歩道幅員：2.0m未満(W=1.0m)				評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者以外にも周知 ○地域の取り組み：積極的な取り組みがある ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている				評価	A
		○事後・再評価からのフィードバック：同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)					
所管課の意見	小学生の通学路であり、小布施町の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	○	総合評価	A
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

【位置図、平面図、構造図等】

位置図



平面図



【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(国)403号は、長野市から中野市、飯山市を結ぶ主要幹線道路である。小布施町は、昭和51年の北斎館の開館に始まるまちづくりの中で、年間約120万人の観光客が訪れる町となった。当路線に沿って主要な観光施設があることから、歩道を利用する観光客が多い。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	地元住民も含めて、道路整備の機運が醸成され、町民の総意としての今後のまちづくりにおける、当路線の整備のあり方について、地域の関心が高まっている。	
	③ 事業説明等の経緯	H20～小布施町の主催する町づくり会議、道づくり会議等を通じ、地元住民へ周知	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	小布施町中心部の景観に配慮した街並み空間整備の一環としての整備(通学児童・生徒、観光客等の安全確保) 小布施町都市計画区域マスタープラン しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」	
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。	
	⑦ その他	特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 41' 45" 東経:E 138° 18' 58"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(一)長野豊野線			
事業毎の通番		35	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	善光寺新町(ぜんこうしんまち)		
事業概要	事業目的	本路線は城山小学校へ通学する児童の他、中学校、高校、大学へ通う学生、善光寺下から善光寺へ向かう観光客が多く通行する。また、(国)406号を補完する道路であり、自動車交通量が多いが歩道が設置されておらず、歩行者が危険にさらされているため、歩道の設置により安全で快適な歩行空間を確保したい。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」						
	保安対象・範囲 受益対象・範囲	城山小学校への通学児童ほか 現況自動車交通量:6,063台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:106台・人/12h						
	着手年度	2020年度(R4)	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2024年度(R6)	費用対効果	-	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=150m W=3.0m			215,000	118,250	96,750	
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される。					
		間接的効果(定量的・定性的)	東参道として善光寺へ向かう観光客の最寄り駅である「善光寺下」駅からの導線であり、観光客の利便性に効果。					
	評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:106台・人/12h(H27センサス推定値) ○目的地からの距離:城山小学校から200m					評価
重要性		○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策 I-(3)」 ○通学路に指定されている、又は観光マップに記載された観光ルートである					評価	A
効率性		○事業期間5年(R2~R6)					評価	A
緊急性		○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 2件 ○現況の歩道幅員:歩道無し					評価	A
計画熟度		○事業情報の共有:関係者以外にも周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:合意形成が図られている					評価	A
		○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を参考					評価	A
所管課の意見	小学生の通学路であり、長野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	総合評価	A	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○		A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】		
	位置図		
	平面図		
	【整備の必要性がわかる状況写真等】		
	現状写真		
	標準横断面		
	事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該箇所は善光寺下駅から城山小学校へ向かう児童の通学路となっているが、車道は狭小であり、かつ歩道もないため、歩行者が非常に危険な状態にある。過去にも車両と歩行者の接触事故が発生しており、歩道の整備を要する状態にある。
		② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	本路線は、善光寺へ向かう観光道路にもなっていることから、地元の東参道活性化委員会より、歩道設置の要望が出された。
		③ 事業説明等の経緯	H28.6月 事業計画説明会 H29.6~H30.2月 関係地元地権者へ個別計画説明。
		④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」 長野市通学路安全プログラム
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮		当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮		歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。	
⑦ その他		特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 65' 87.9" 東経:E 138° 19' 11.6"	

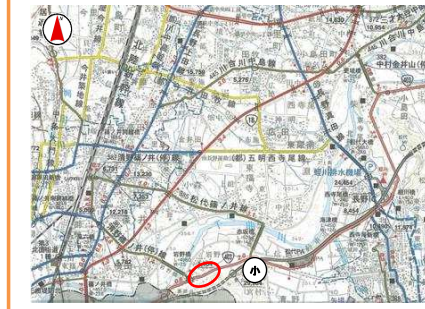
(様式1-2)新規評価シート

建設部 整備課

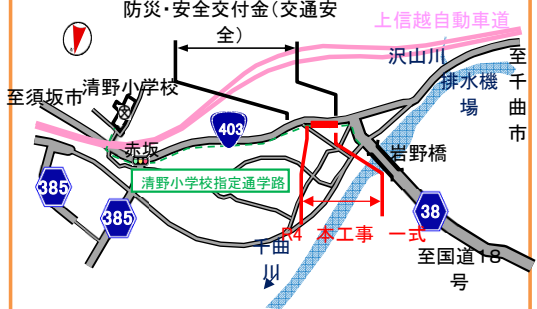
事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	(国)403号			
事業毎の通番	36	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	岩野(いわの)		
事業概要	事業目的	当路線は新潟市と松本市を結ぶ幹線道路であり、交通量が多い。しかし当区間は幅員狭小であり、また、歩道が未整備のため、車両・歩行者双方の安全に支障をきたしている。そこで、当事業は利用者の安全及び円滑な交通確保のため、歩道設置を行うものである。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	清野小学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:10,490台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:192台・人/12h					
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	2年間			
	完成年度(見込み)	2023年度(R5)	費用対効果	-	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工(両側) L=170m W=4.0m			100,000	55,000	45,000
		国庫	其他	県債	一般財源		
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される				
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制				
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:192台・人/12h ○目的地からの距離:清野小学校L=1500m			評価 B		
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策 I-(3)」 ○通学路の指定:通学路防災安全・防犯対策プログラム(R3合同点検) 清野小学校			評価 A		
	効率性	○事業期間2年(R4~R5)			評価 A		
	緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 1件 ○現況の歩道幅員:歩道無し			評価 A		
	計画熟度	○事業情報の共有:長野市のHPIにて周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)			評価 A		
所管課の意見	小学生の通学路であり、長野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況 ○	総合評価 A		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

【位置図、平面図、構造図等】

位置図



平面図

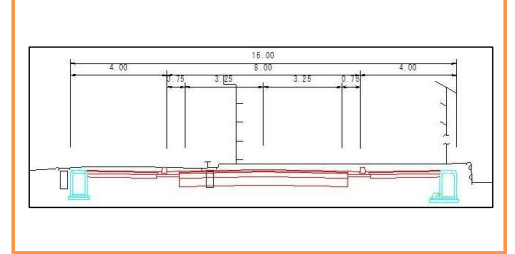


【整備の必要性がわかる状況写真等】

現状写真



標準横断面



事業概要説明図表

事業周辺環境

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は新潟市と松本市を結ぶ幹線道路であり、交通量が多い。しかし当区間は幅員狭小であり、また、歩道が未整備のため、車両・歩行者双方の安全に支障をきたしている。そこで、当事業は利用者の安全及び円滑な交通確保のため、歩道設置を行うものである。	
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	付近に小、中学校があることから、歩行者の保護が求められている。このため、歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保を要望されている。	
③ 事業説明等の経緯	H27地元説明会実施 期成同盟会現地調査時に計画予定等説明 R3通学路緊急合同点検時に経過予定等説明	
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」 長野市通学路安全プログラム	
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。	
⑦ その他	特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 11'43.6" 東経:E 138° 29'29.0"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

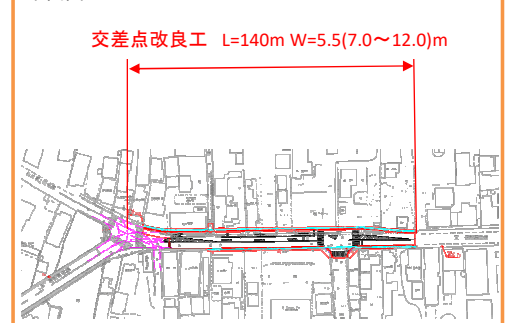
事業名	交通安全施設等整備事業		路河川名等	(主)長野真田線		
事業毎の通番	37	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	松代中町(まつしろなかまち)	
事業概要	事業目的	当路線は、長野市と上田市を結ぶ幹線道路であり、通過車両の進入による渋滞、交通事故が発生しています。しかし当交差点は、長野市南部から千曲市にかけての公的基幹病院である長野松代総合病院へ通じる市道との交差点であり、交通が滞り、右折車線が設置されておらず、恒常的な渋滞が発生している。そのため、本事業により、安全で円滑な交通を確保したい。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	通学路緊急合同点検				
	保安対象・範囲 受益対象・範囲	松代小学校、松代中学校 通学児童・生徒 他 現況自動車交通量:3,481台/日、現況交通量(歩行者・自転車)77台・人/12h				
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	2年間	事業費(千円) 財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	2023年度(R5)	費用対効果	-	国庫	その他 県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	交差点改良 L=140m W=5.5(9.5~12.0)m		70,000	38,500	31,500
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童の交通事故の減少が期待される 車両交通の円滑化が期待される			
		間接的効果(定量的・定性的)	緊急輸送路、バス路線の整備 通行車両の交通事故抑制			
	評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:48台・人/12h ○目的地からの距離:松代小学校から700m			評価
重要性		○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0、信州みちビジョン、通学路緊急合同点検 ○通学路等の指定:松代小学校			評価	A
効率性		○事業期間2年(R4~R5)			評価	A
緊急性		○近年の交通事故件数:人身事故 8件(H26~H30) ○通学路対策:通学路合同点検を踏まえた対策箇所(中町交差点) ○現況の歩道幅員:2.0未満の歩道あり			評価	B
計画熟度		○事業情報の共有:関係者を中心に周知(H29.2月 地元説明) ○地域の取り組み:期成同盟会からの要望あり ○地域の合意形成:合意形成が図られている ○再評価・事後評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映			評価	A
所管課の意見	小学生の通学路であり、長野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	A
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

【位置図、平面図、構造図等】

位置図



平面図



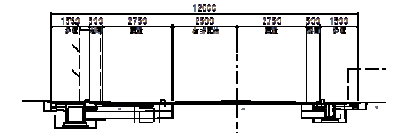
【整備の必要性がわかる状況写真等】

現状写真



標準横断面

(交差点部)



事業概要説明図表

事業周辺環境

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	中町交差点は長野市平線と長野松代総合病院や歴史的な遺産へ通じる市道と丁字交差となっている。地域の病院利用者や遺産へ向かう観光客により、恒常的な渋滞が発生しており、右折レーンの整備をした交差点形状の見直し機運が高まった。		
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	松代総合病院、松代城跡など交差点を右折する利用者が多く渋滞の原因となっていることから期成同盟会からの要望が出された。また、松代小学校の通学路となっていることから、交差点改良による環境の改善要望が出された。		
③ 事業説明等の経緯	H27.2月 中町交差点改良基本計画説明会。 H27.3月 地元地権者へ計画説明。 H29.2月 地元地権者へ計画(修正)説明。		
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」長野市通学路安全プログラム		
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。		
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。		
⑦ その他	特になし		
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 33' 59.18" 東経:E 138° 12' 5.52"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備		路河川名等	(国)406号		
事業毎の通番		38	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	鬼無里町(きなしまち)	
事業概要	事業目的	本路線は長野市街地と戸隠、鬼無里を経由して白馬村へ至る幹線道路である。当地区は鬼無里地区の中心地であり、長野市鬼無里支所や鬼無里小学校、鬼無里中学校等の公共施設も集積している。しかしながら、当該箇所は歩道が未整備であり、小中学生をはじめ、歩行者が危険にさらされているため、歩道の設置により歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保したい。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	鬼無里小学校、鬼無里中学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:2,168台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:55台・人/12h					
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2027年度(R9)	費用対効果	-	国庫	その他	県債	
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=280m W=2.5m			368,000	202,400	165,600	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される					
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制					
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:55台・人/12h ○目的地からの距離:鬼無里小学校L=200m				評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定:通学路交通安全・防犯対策プログラム(R4合同点検) 鬼無里小・中学校				評価	A
	効率性	○事業期間6年(R4~R9)				評価	B
	緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 5件以上 ○現況の歩道幅員:歩道無し				評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有:市のHPで周知関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:期生同盟会があり積極的な取組みがある ○地域の合意形成:合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)				評価	A
所管課の意見	小学生の通学路であり、川上村の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。			探採状況	総合評価	A	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○		A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】	
	位置図	
	平面図	
	【整備の必要性がわかる状況写真等】	
	標準横断面	
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該路線は、鬼無里小中学校の通学路であり、長野市鬼無里支所等の公共施設が集積しているが、歩道が未整備であり、小中学生をはじめとする多くの歩行者が危険にさらされていることから、歩道整備の必要性が高い。
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	通学路緊急合同点検を踏まえ、毎年、地元、PTA等より早期整備の強い要望がある。長野市を通じ地域へ毎年事業進捗状況を説明。長野市ホームページ「通学路交通安全プログラム」において、通学路の危険箇所として学校とともに地域と情報を共有。
	③ 事業説明等の経緯	計画及び工事に伴う説明会実施済み
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」 長野市通学路安全プログラム
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
	⑦ その他	特になし
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 40'50.1" 東経:E 138° 00'22.7"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

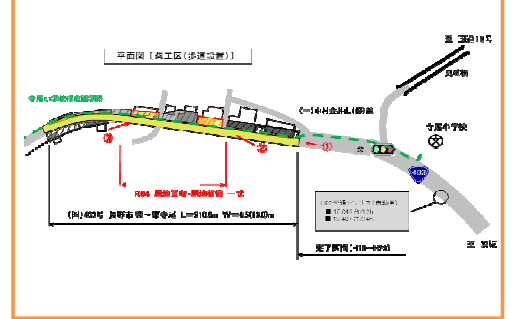
事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(国)403号	
事業毎の通番		39	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	柴～東寺尾(しば～ひがしてらお)
事業概要	事業目的	当路線は新潟市と松本市を結ぶ幹線道路であり、交通量が多い。しかし当区間は歩道が未整備で、車両・歩行者双方の安全に支障をきたしている。近隣には、寺尾小学校があり通学路にも指定されて歩行者も多く、地域住民からの対策要望が高まっている。そこで、当事業は歩行者の安全確保のため歩道を設置するものである。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律	
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	寺尾小学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:19,407台/日(H22センサス)、現況自転車歩行者交通量:57台・人/12h				
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	2年間		
完成年度(見込み)	2023年度(R5)	費用対効果	-	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=210m W=2.5m			102,415	56,328	46,087
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される				
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制				
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:57台・人/12h ○目的地からの距離:寺尾小学校L=300m			評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策 I-(3)」 ○通学路の指定:通学路安全プログラム(R3合同点検) 寺尾小学校			評価	A
	効率性	○事業期間2年(R4～R5)			評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 1件以上 ○現況の歩道幅員:歩道無し			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:合意形成が図られている			評価	A
		○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)			評価	A
所管課の意見	小学生の通学路であり、川上村の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

【位置図、平面図、構造図等】

位置図



平面図

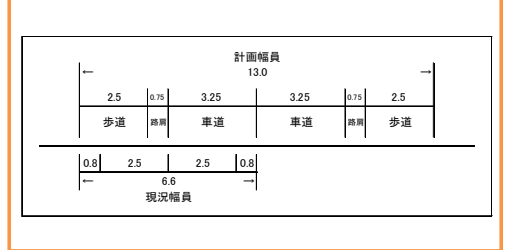


【整備の必要性がわかる状況写真等】

現状写真 (通学状況)



標準横断面



事業概要説明図表

事業周辺環境

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当箇所は、長野市の郊外住宅地として発展してきており、周辺には小学校、保育園、鉄道駅等が立地している地区である。当該地区は高速道路の開通後、交通量が急速に増加しているが、歩道が設置されていないため、朝夕の通勤・通学時には歩行者・自転車が車道を混合して通行しており、大変危険な状態である。			
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	地元の柴区から継続的に歩道設置の要望がある。また、(国)403号(中野・千曲間)整備促進期成同盟会からも歩道設置事業の促進について要望がある。			
③ 事業説明等の経緯	平成25年度に地元地区へ道路詳細設計の説明会を実施。その後も毎年、地元地区へ進捗状況を報告している。			
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」 長野市通学路安全プログラム			
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。			
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。			
⑦ その他	特になし			
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 35'23.2"	東経:E 138° 11'55.8"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(国)117号			
事業毎の通番		40	市町村名	中野市	箇所名(ふりがな)	替佐(かえさ)		
事業概要	事業目的	当路線は、長野市から飯山市を結ぶ長野県二次緊急輸送道路の主要幹線道路であり、長野方面から飯山方面への通過車両に加え、豊田地域から長野市への通過車両の交通量も多い。しかし、当該区間は歩道が未整備であるため、豊田小中学校の通学路には指定されず、また高齢歩行者の安全が脅かされている。 また、国道117号替佐～静岡BPが平成28年10月21日に供用開始されて以来、通過車(特に大型トラック)が増大しており、地域住民からの安全対策要望も高まっていることから、歩道整備を行うことにより歩行者の安全を確保したい。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律				
	関連する事業、計画等	中野市都市計画区域マスタープラン しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州道ビジョン「施策 I-(3)」						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	豊田小中学校 通学者、JR替佐駅 通勤者他 地元住民 現況自動車交通量:6,663台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:28台・人/12h(H27センサス)						
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	5年間	事業費(千円)			
	完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	-	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工(片側) L=275m W=2.5m			149,600	82,280		67,320
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩車分離を行うことで歩行者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される					
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制 緊急輸送路、バス路線の整備					
	評価の視点	必要性	○現況自動車交通量:6,663台/日(H27センサス) ○現況自転車歩行者交通量:28台・人/12h(H27センサス) ○目的地までの距離:400m(豊田小学校)				評価	B
重要性		○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策 I-(3)」 ○通学路の指定:豊田小学校				評価	A	
効率性		○事業期間:5年間(R4～R8)				評価	A	
緊急性		○近年の交通事故件数:計画区間で平成29年に事故が2件 ○現況の歩道幅員:歩道なし				評価	A	
計画熟度		○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:積極的な取り組みがある ○地域の合意形成:合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)				評価	A	
所管課の意見	小学生の通学路であり、中野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	位置図	標準横断面図		
	状況写真	豊田小中学校		
	平面図	全体計画 L=275m W=2.5m		
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当箇所は、一部が豊田小中学校の通学路であり、JR替佐駅への歩行者も多いが、歩道がなく危険な状況。国道117号替佐～静岡BPが平成28年10月21日に供用開始し、通行車両が増大。計画区間で平成29年に事故が2件発生している。		
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	毎年、期成同盟会総会が開催され事業内容等を報告。建設部長要望あり。地元の地区(替佐区)からも中野市を通じて歩道設置の要望が出されている。豊田地域小学校統合準備委員会歩道設置要望箇所。		
	③ 事業説明等の経緯	H27.11月 地元説明会で計画説明。 H28.5月 地権者のみで計画説明。		
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	中野市都市計画区域マスタープラン 中野市通学路安全プログラム しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」		
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。		
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。		
	⑦ その他	特になし		
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 46' 18" 東経:E 138° 19' 06"	